

境也中也之也之 表下依之 冥之冥之 田子之冥之 堀江之吉
 中皇之五十人之運之 大乃之六 西大之 堀江之吉
 石田之吉之 松本之吉之 今北之 三乃之 堀江之吉
 日七之 石母之大之 今北之 堀江之吉
 横田之吉之 奥山之吉之 堀江之吉 依之 堀江之吉
 今北之 大所之吉之 堀江之吉 堀江之吉 小田之文之九之年
 子之吉之 堀田之吉之 堀江之吉 大浦之吉之 目黒之吉之
 小入之吉之 今北之 支倉之吉之 堀江之吉 堀江之吉
 松田之吉之 河東之吉之 計之吉之 堀江之吉 堀江之吉
 堀江之吉 大山之吉之 堀江之吉 堀江之吉 堀江之吉

國安之林之吉之 遠之吉之 堀江之吉 堀江之吉
 五月之朔 牧之吉之 堀田之吉之 上田之吉之 堀田之吉之
 堀田之吉之 小田之吉之 子川之吉之 堀田之吉之 堀田之吉之
 堀田之吉之 成田之吉之 依之吉之 堀山之吉之 堀田之吉之
 依之吉之 西大之吉之 堀江之吉 堀江之吉 堀江之吉
 河東之吉之 河東之吉之 堀田之吉之 堀江之吉 堀江之吉
 堀江之吉之 大所之吉之 堀江之吉 堀江之吉 堀江之吉
 堀江之吉之 堀江之吉之 堀江之吉 堀江之吉 堀江之吉
 堀江之吉之 堀江之吉之 堀江之吉 堀江之吉 堀江之吉
 堀江之吉之 堀江之吉之 堀江之吉 堀江之吉 堀江之吉

長尾之殿 少皇座百人運在也 五月二十 大條海七

新田刑部 新田信忠 小田造大學 小田造勘九郎 今山山陣

秋保長門 日長長人 秋保高平 喜川清十郎 松田兵三郎

松坂高市 中務左馬侍 高橋源助 本内監河 本田高十郎

石田源保 本齋氏十郎 小宗掃部 中津川新平 氏江忠也

氏家權平 新妻源正 高橋江流 内多場源右衛門 齋谷久吉

秋保若市 高丸掃部 新田久作 高田川休治 高田川清吉

松本兵衛 沼使助 大平信吉 高田次右衛門 巽並兵三郎

高田監物 高田甲斐 高田又次郎 高橋信右衛門 丹波信之助

山田三之信 岡本三之内 杉本大學 今村監物 茂元友三郎

^{高橋}氏家新七 總田新八 寺之原權吉 布部守中 上郡山兵三郎

砂田加吉 五月四 藏金山三信 高橋源助 遠藤九郎

内多場助 磯田信右衛門 今五郎 遠山伊藤 木波筑前

二宮助之助 東高林三右衛門 伊豆源兵衛 高橋源三郎

永原三郎 今三下 佐布高吉 高橋新右衛門 井内源平治

高尾助市 高尾忠吉 藤又治助 石川源平 白根兵丹後

大内源右衛門 高尾源也 高橋源清 高橋源吉 大窪八右衛門

二瓶源助 今七 高橋兵三郎 伏魔高木 高橋源三郎

河原庄七 高橋源吉 高山又花 高田源平 木村三郎

秋保善吉 中村信宗 中村源吉 高木源吉 高橋九十郎

次田右近 木崎新守 原利介 根田左助 吉田長平
吉田公吉 赤坂彦吉 大石千吉

古合 乃百八

白石六藏判

五月

松佐与信次判

奥山空村居

一日五月政宗公大坂少陣少備立

前田伏見

徳百藩倉仁信居

緋兵衛藏人

淡路百

伊豆徳兵衛

馬上六十騎 沼田平 山行丹波

淡路三百

佐兵衛

徳五十

黒沢久七

一家一徳加

片倉小十郎

片佐及大守

黒谷新右

徳百

関部三郎

一家一徳加

徳百 赤井性

山村六郎

徳五十

平家吉

徳百 大河内隆月 佐倉清吉

鉄炮百十

木崎新守 吉田公吉

伊達守房守成実

鉄炮百十

佐藤平次郎 佐藤清吉

鉄炮百 奥山空村

馬上百騎

鉄百

赤坂彦吉 大石千吉

鉄炮百

吉田長平 白石六藏

後院 五百

伊達右近大夫重宗

銃砲百十 阿保田造殿
大町山守

銃砲五百 銃砲百 石舟田大股

馬上百騎 銃砲百十 白根使丹波
大町山守

銃砲百 依り若殿 銃砲百 牧野大藏
長尾主殿 上田久八 今山守

銃砲百 吉田守屋 銃砲百 多川主殿
山守志磨 伴田氏部 善吉守

銃砲百 坂田辰法 銃砲百 富平内
磯田作左 伴田氏部 新田刑部

銃砲百 草刈藏人 銃砲百 石川彌平
杖保長門 横山清以方 小田大守

銃砲百 氏家守内 銃砲百 松平守
手田守 横山清以方 言原守

銃砲百 大山脚守 銃砲百 松平守
然谷伯耆 手田守 言原守

銃砲百 小幡左九

銃元百五十騎 銃百三十 石舟田大股

大將

銃元百五十騎 銃砲百世 大町左九

銃百世 浪仁守

一五月二、家康公秀忠公大坂守名陣日五、候、合戦、始、日七、
日大坂、城、被、燒、拂、日、八、秀、賴、公、自、害、其、身、政、令、不、公、討、元、首、數、
左、通

一五月六日於道明寺表片念小十中四ノ志

蕭生仁之掃首一日一石川右中左中一日一前也之四甲一日一

末永古通一日二片平与次中一日一佐友次中左中一日一

今村新中一日一立橋友中一日一淡部孫次中一日一

細川福令一日二与奈本掃部一日一目黒大守一日一

小室友中一日一橋野中一日一佐友大守一日一

松木中左中一日一小室掃部一日一混谷右中左一日一

小平茂助一日一佐友源藏一日一前也佐友中一日一

友友友中一日一武友平中一日一川原中左中一日一

混谷中左中一日一佐友中左中一日一佐友中左中一日一

佐平彌中一日一達崎中左中一日一熱海久藏一日一

飯沼新中一日一小平藏人一日一尾使友中一日一

佐藤友中一日一佐友中左中一日一梅津中左中一日一

友橋中左中一日一大塚三吉一日一八島中左中一日一

混谷中左中一日一今島中左中一日一加友傳中一日一

山内中左中一日一友中左中一日一武田中左中一日一

遠友中左中一日一山家中左中一日一橋野中左中一日一

加友中左中一日一今島中左中一日一西山中左中一日一

口元中左中一日一山田中左中一日一松尾中左中一日一

丹地中左中一日一石川中左中一日一橋山中左中一日一

清和天皇 日一 長谷部三平 日一 小尻平次 日一
 新田忠孝 日一 大内忠房 日一 目黒五郎 日一
 村上茂中 日一 佐藤九左 日一 渡辺治房 日一
 藤原与中 日一 高田忠房 日一 高橋与中 日一
 高橋忠六 日一 高橋忠房 日一 高橋又忠 日一
 高橋忠房 日一 丹波五郎 日一 古川忠房 日一
 遠藤源房 日一 西山小平 日一 藤原忠房 日一
 藤原忠房 日一 藤川与中 日一 五十地忠房 日一
 関谷忠房 日一 藤原忠房 日一 藤原忠房 日一
 藤原忠房 日一 藤原忠房 日一 藤原忠房 日一

大和天皇 日一 右合八十八
 一印 藤原忠房
 甲田十之房 日一 藤原忠房 日一 藤原忠房 日一
 石母田大膳 日一 高橋忠房 日一 小堀忠房 日一
 上田久八 日一 大内忠房 日一 藤原忠房 日一
 藤原忠房 日一 藤原忠房 日一 藤原忠房 日一
 藤原忠房 日一 藤原忠房 日一 藤原忠房 日一
 藤原忠房 日一 藤原忠房 日一 藤原忠房 日一
 藤原忠房 日一 藤原忠房 日一 藤原忠房 日一
 藤原忠房 日一 藤原忠房 日一 藤原忠房 日一
 藤原忠房 日一 藤原忠房 日一 藤原忠房 日一
 藤原忠房 日一 藤原忠房 日一 藤原忠房 日一
 藤原忠房 日一 藤原忠房 日一 藤原忠房 日一

新庄神社 日二 荒井与洛中 日一 朴伏九吉 日一

富原権内 日一 植口原藏 日一 小入子与月 日一

成田小吉 日一 右合三十三

一草刈藏人秋保長門子系少給与云凡

丹地安与 日二 富原与月七日 日一 終木恒藏 日一

栗地掃部 日一 油井三与月 日一 西与月与与月 日一

福田三与月 日一 黄地又与月 日二 右合九何七村持之

一伊藤肥系子系少足恒

一遠尾藤三与月 日一 石川民部 日一 伊与月与月 日一

右合三

一黒伏久七子系少足恒

平野与月 日一 佐与月与月 日一 与与月与月 日一

右合三

一平泉書子系少足恒与与月与月 日一

一磯田作与与月与月与月与月 日一

一大山助与与月与月与月与月 佐与月与月 日一

一依与与月与月与月与月与月 日一 終与与月与月 日一

右合三

一馬場藏与与月与月 凡内又与月 日一 永山与月 七日一

右合三

一伊達安房殿家来 呂弥考文日一 經末市刀日一

一兵戶名之儀 日一 阿部与右方日一 阿部依内日一

一加藤仲与方日一 丹地保左与方日一 右合七

一石田大膳内之志 大沼總殿亦日一 西村九与方七日一

右合式

一上田久八内之志 次与方日一 法与方日一 右合式

一奥山守羽内之志 經末与方日一 遠及与方日一

一松井十与方日一 伊及与方日一 呂弥考与方日一

右合六

一石川大和殿家来 夫次与方日一 堀自与市日一

一佐及原藏 日一 長山次与方日一 言崎部平日一

右合五

一佐々善授内之志 言尾次与方日一 伊及与藏日一

一阿部弥与方日一 阿部甲助日一 小野藏人日一

右合五

一牧野大藏内之志 休内与方日一 伊及与方日一

一阿部与方日一 早川与方日一 曾木掃部日一

右合六

一原田甲斐内之志 横山与方日一 六角南与方日一

右合式

一依藤七右内之老 店子村六日一

一天町之計内之老 黒田左之舟日一 大杉使老右日一

尾田中右日一 右合之

一長尾之敷舟内之老 浅平舟池日一

一茂原周防内之老 波部老右日一 浅木舟人日一

右合式

一浅平舟内之老 理右舟日一

那合百八十六

一五月廿於大坂表

一浅倉小十舟内之老 松島船中舟日一 石川源之舟日一

丹地源舟日一 忌原舟藏日一 浪右舟舟日一

蒲倉仁之舟日一 浪右舟船日一 高橋助舟日一

浪右舟藏日一 小笠助舟日一 依左舟七日一

大塚之吉日一 横山左舟日一 小林舟舟日一

小平金舟日一 山林舟舟日一 山内舟舟日一

浅井舟舟日一 松木舟舟日一 依左舟舟日一

志賀舟舟日一 波部舟舟日一 阿部舟舟日一

松佐舟舟日一 浅井舟舟日一 金若舟舟日一

水戸舟舟日一 新屋舟舟日一 芳賀舟舟日一

西山舟舟日一 小林舟舟日一 大信舟舟日一

都築末八 日一 横山助右 日一 河原子内藏女 日一
 三指助六 日一 深谷五右 日一 新屋助六 日一
 草刈与吉 日一 氏家惣九 日一 新屋信右 日一
 遠屋源七 日一 新屋源七 日一 与奈存掃部 日一
 安治源七 日一 安治又三 日一 佐屋惣七 日一
 八崎与右 日一 伏田布右 日一 新屋源七 日一
 村上与右 日一 武田源布 日一 木津惣四 日一
 且木源十 日一 郡山兵右 日一 右合五十六
 一所宗於奉元月七 梅津五三坊 日一 内三坊新右 日一
 岩井信治 日一 内三坊源惣 日一 赤田重右 日一

考 左道 日一 黒伏久七 日一 星野三坊 日一
 佐伯米流 日一 大倉信六 日一 石田内殿 日一
 能上兵部 日一 口内助右 日一 久地又三 日一
 中目与右 日一 茂尾若女 日一 大浪右京 日一
 宮地新藏 日一 松本与右 日一 玉子権三坊 日一
 新屋与右 日一 豊崎山卷 日一 赤崎茂吉 日一
 大沼与右 日一 石田仲藏 日一 石川長十 日一
 大内庄八 日一 吉田権六 日一 中崎監物 日一
 笠屋与右 日一 津田道右 日一 与屋又治 日一
 磯田与右 日一 赤良坂系忠 日一 皆川助平 日一

丹地丸丸	日一	平島吉	日一	平正吉	日一
吉不作藏	日二	平丹信常	日一	荒井助丸	日一
目三伏原元	日一	和田幸水	日一	湯村助丸	日一
安田寛吉	日一	若井彌信	日一	高田庄依	日一
山名源布	日一	勅使河原丸	日三	内子陽徳庵	日一
赤尾幸平	日一	大和田金平	日一	桂山庄依	日一
木村助助	日一	兼田八五郎	日三	伊豆彦依	日二
山本源内	日一	横山庄依	日一	布路助丸	日一
宗徳	日一	次田源太	日一	麻又五郎	日二
石吉又依	日一	滝田新八	日一	川崎信治	日一

秋保善吉	日一	白根伏丹波	日一	柳伏七藏	日二
仙石却平	日二	笠崎助丸	日二	石田甲斐	日二
志賀丸三	日三	石田右近	日一	阿部九左	日一
終木丹阿弥	日一	渡辺助丸	日一	若井源七	日一
茂元庄依	日一	伊豆幸吉	日一	横地源丸	日一
石田金平	日一	新島善七	日一	市川源次	日一
畠崎庄助	日一	遠及九藏	日二	本内平藏	日二
白井源中	日一	高田茂吉	日一	後及三吉	日一
遠及助平	日一	門伏善平	日一	石川信内	日一
佐々木五右	日二	細地善吉	日二	由井善吉	日一

油井普助 日一 貝田玄菟 日二 丹野隆布 日二
 梅津久次 日二 宮崎彦平 日二 阪井市介 日二
 野原舟之丞 日二 大友新法中 日二 二宮平内 日二
 後庭忠九郎 日二 相室屋宮内 日二 横田忠平 日二
 原田隆作 日二 佐藤七兵卫 日二 遠庭新四郎 日二
 安田波右 日二 菅井除共 日二 若田源右 日二
 大河内仲意 日一 右合百五十二内打探之介生捕三人
 一 大町庄左子 兼堂恒 大榎喜子 日一 佐藤将監 日一
 庄左 日一 紺地九内 日一 右合四
 一 安庭権九郎 権尾甚七子 兼堂恒 黒川甚右 日一

矢卷藏人 日一 佐多右左衛門 日一 古山佐吉 日一
 加茂平右 日一 右合五
 一 平泉若黒次久七 兼下作藏子 兼堂恒
 兼地普徳子 日一 樽田左近 日一 横山十左 日一
 兼田三子 日一 樽本与右 日一 松浦九吉 日一
 能木宗女 日一 兼治源虎 日一 藏人 日一
 右合九
 一 磯田佐吉子 兼堂恒 三左 日一 新庄与 日一
 金十郎 日一 与惣与 日一 法十郎 日一 与一平 日一
 兼乐与 日一 与右与 日一 兼八平 日一 与吉 日一
 兼与 日一 与右与 日一 兼八平 日一 与吉 日一

森吉乃 日一 久七 日一 又吉乃 日武 右合十四

一 森田吉乃乃 日一 加茂文乃乃 日一 三橋角舟 日一 右合六

一 伊庭肥前乃 日一 伊庭小舟 日一

一 荒井丸京園 日一 三橋乃 日一 三橋乃 日一 三橋乃 日一

早坂藏人 日一 遠及乃乃 日一 右合六

一 武山吉乃 日一 秋保長門乃 日一 給乃乃 日一 森及乃乃 日一

丹波乃乃 日一 荳陽乃乃 日一 清乃乃 日一

庄子又乃 日一 大空乃乃 日一 日一 大胡丸藏 日一

松田乃乃 日一 上田乃乃 日一 計生乃乃 日一

荳陽乃乃 日一 庄子乃乃 日一 右合十二

一 小嶋乃乃 日一 允乃乃 日一 乃乃 日一 乃乃 日一 乃乃 日一

乃乃 日一 乃乃 日一 乃乃 日一 乃乃 日一 乃乃 日一

乃乃 日一 乃乃 日一 乃乃 日一 乃乃 日一 乃乃 日一

乃乃 日一 乃乃 日一 乃乃 日一 乃乃 日一 乃乃 日一

乃乃 日一 乃乃 日一 乃乃 日一 乃乃 日一 乃乃 日一

右合十八

一 石川大和殿 日一 乃乃 日一 乃乃 日一 乃乃 日一

乃乃 日一 乃乃 日一 乃乃 日一 乃乃 日一 乃乃 日一

乃乃 日一 乃乃 日一 乃乃 日一 乃乃 日一 乃乃 日一

乃乃 日一 乃乃 日一 乃乃 日一 乃乃 日一 乃乃 日一

右合十一

一 茂能石見内ノ表 粟地九平次 日一 村生長之信 日一
 牧地中助 日一 牧地左内 日一 三田 花八 日一
 志賀茂之信 日一 三平孫之信 日一 馬川九平次 日一
 星半三平 日一 芳賀内統 日一 早川八三信 日一
 上野源吉 日一 鉦地左吉 日一 赤尾藏人 日一
 佐野伊之信 日一 右合十五
 一 山園志摩内ノ表 徳田仁信 日一 坪田吉平 日一
 菊地之吉 日一 菊地之吉 日一 藤原之信 日一
 吉田信吉 日一 猪崎之吉 日一 横山源吉 日一

右合八

一 奥山守利内ノ表 松本才左 日一 伊原傳五 日一
 夫吹信之吉 日一 大江信市 日一 塩 茂之吉 日一
 菅谷源吉 日一 相反傳助 日一 松本三平 日一
 松本孫吉 日一 安積長藏 日一 江卷部七 日一
 大窪源吉 日一 矢内之吉 日一 石田清信 日一
 吉見才左 日一 横山金藏 日一 右合十六
 一 津田民教内ノ表 半次才左 日一 我妻内之信 日一
 飯坂之藏 日一 手代木与次 日一 佐藤新吉 日一
 松本才左 日一 次尾信吉 日一 井上長治 日一

横山又右内 日一 十右内 日一 三右内 日一

久右内 日一 平七内 日一 吉右内 日一

右内 日一 久右内 日一 右合十六

一甲治監物内 日一 鈴木庄助 日一 伊左内 日一

上右内 日一 右合三

一伊左肥前内 日一 内海津右内 日一

一浪上兵部内 日一 松原十右内 日一 助次内 日一

一石田内膳内 日一 右合三 日一 伊助 日一

一名村金右内 日一 又右内 日一 横右内 日一 右合五

一横尾助七内 日一 大右内 日一 吉八右内 日一

後及仁右内 日一 大石右内 日一 右合五

一右内 日一 古山内 日一

一武山王殿内 日一 市右内 日一 吉右内 日一 助吉 日一

右合四

一茂左内 日一 坂本右内 日一

一佐内 日一 助吉 日一

一平三右内 日一 吉右内 日一

一久内 日一 助吉 日一

一海内 日一 吉 日一

一 只地 勘平 内 之 表 長吉 日一

一 木村 仲吉 内 之 表 彦吉 日一

一 兼田 八右 内 之 表 金藏 日一

一 長右 勘長 内 之 表 勘平 日一

一 石田 金平 内 之 表 与吉 日一

仙 爲 之 之 下 討 之 之 名 子 知 之 凡 三 丁

一 伊達 高 彦 内 之 表 首三十一 伊達 友 通 内 之 表 日九

新 田 武 敏 内 之 表 日一 黒木 彦 吉 内 之 表 日三 大町 之 計 内 之 表 日六

茂 隆 周 助 内 之 表 日六 中 崎 吉 右 内 之 表 日七 三 協 藏 内 之 表 日一

逆 忌 右 之 内 之 表 日六 秋 保 彦 吉 内 之 表 日一 早 川 九 八 内 之 表 日四

横 尾 勘 七 内 之 表 日四 安 彦 三 右 内 之 表 荒 川 右 之 内 之 表

関 高 三 右 内 之 表 日一 表 下 作 藏 内 之 表 大 内 源 右 之 内 之 表 日三

高 田 甲 斐 内 之 表 日十三 右 合 百 十九

右 之 外 七 丁 時 之 少 日 池 之 外 兼 九 十八 岩 崎 彦 吉 合 七 十 四 部 合 三

百 十 丁 之 以 内 三 十 三 打 院 外 以 入 生 捕 吉 右 合 百 五 十 六 少 五 (之 外 下

名 先 知 少 之 外 惣 部 合 七 百 九 十 九 之 大 坂 陣 内 人 數 十 万 七 千

六百 人 元 和 元 年 五 月 六 七 之 苦 池 之

一 五 月 六 七 之 政 宗 公 家 中 牧 大 藏 秋 保 長 門 之 刑 於 之 草 刈

藏 人 又 深 内 孫 板 治 中 彦 吉 始 之 之 討 死 之 百 余 人

一 片 金 十 十 巾 八 後 彦 又 三 所 之 討 死 依 入 家 康 公 之 為 少 鷹 矢

金の園より

一六月五日政宗公大坂より江戸へ召寄られ家康公秀忠公日下へ召
道之

一閏六月廿七日大坂より江戸折井伊掃部頭後を以て從三位
宰相に任じ

一月廿三日福系兵部少輔を以て左衛門少将大坂御神妙に
召寄られより家康公より百人扶持を命じ

一月夏大坂再乱より政宗公の軍役を以て蒙り加賀のより
より江戸造合のより中より召連れより五月のころより

人数より四月九日江戸より出陣を以て國許にも急使を遣はす

少人数修之より大坂池を以て居るより作基に政宗公於大坂

越後又將居より同陣に大和道明寺表のより依り奈

より合戦始より公に大坂を以て白山より出陣より政宗公の

より先子に合戦より中より常陸州に於て合戦し七軍功より以時

牧地大藏に於てしるる名も物に秋保利於子孫を以て

川原に服板治を以て討死し日七より大坂城内に召寄りの

考より傳中より於てより日下より秀頼自害し後より巻物の

侍妻より討死し或は自害を政宗公より討死首五百五

より中より大坂先陣の大将後及より傷落田平人等の首を

打元終ふは元大坂再祀三月秀忠公が政宗公(限子四千六百五
 十枚下流の里二月下旬に越後へ至り仙臺の人数の四六
 坂と云地名の中と云ふ事を知る事少く減又白川の
 里北より下河に書る事少く進退を事りたる上

一月秋上徳寺思想た不教の品をて遠流を安せり越後國七十五
 万石の所地と云上依し政宗公の易女越後言回より白戸の登り
 政宗公の下屋為(ヤ移)十四五年迄に依り此の生後仙臺
 一戸下河の北西彼に依住此の後天麟院と云

一月十月十日政宗公白戸の立日十八日仙臺の寺名
 一月冬家原公の上言とて茂元石見沼元白戸の地也

一江戸新橋の庵を今年の新橋
 一月年三月十八日政宗公の子竹松九四年八月を以て卒去法
 名江岩寺庵惠春大禪定門の曼輪王寺追服侍二人
 一江戸新橋の庵を今年の新橋

一江戸新橋の庵を今年の新橋
 一月年十月十日片倉小十郎後に備中系洞卒を五十九傑山
 寺殿後新殿英居士と号すを白石城全の祖と

元和二年 丙辰

一 家康公元和二年二月上旬より四月下旬に於て政宗公仙臺に召寄り三月下旬に仙臺に到り四月十七日家康公七十五歳薨去

一 伊豫界云元和二年家康公言恙を以て後子也政宗公少召仙臺に召寄り後府(越後)に於て逗留あり上府の少将命を付する家康公即恩換りて政宗公に上之の後家康公少前にて召出遠方へ後嫡を立置りて悦且秀忠公(福忠義)を以て名上之計に豫め少逆おこすに控の云海を以て後子

一十二月忠宗公侍従に任し給ふ

元和三年 丁巳

一 三月下旬政宗公仙臺に召出少事勤政宗公少子也少時之城を伊達播磨守宗潤黒川の城に伊達河内守少内道四月三日に少少名刻に目見播磨守河内守に召出少目見播磨守に忠宗公少一版河内守に秀忠公少一版に播磨守河内守に四月廿二日に召出少仙臺に召出

一 七月廿二日秀忠公仙臺に召出上洛九月三日少事勤政宗公七月廿二日に召出少先公に政宗公二番米次中納言宗

勝三番ハ佐竹右京之義宣四番ハ松平丹波守忠能五
番ハ松平河内守忠國六番本多上也正隆七番本井大炊
比忠思八番酒井雅元九番本陣十番加茂對馬守
重國十一番本井左京之勝信十二番若松元守忠正
十月二十秀忠公白戸(ハ)御城政宗公後陣(ハ)十月九
白戸(ハ)名

一十二月十八別示貞宗の御城(ハ)御城(ハ)御城(ハ)
一十二月十二日他國(ハ)御城(ハ)御城(ハ)御城(ハ)
院殿の御城(ハ)御城(ハ)御城(ハ)御城(ハ)御城(ハ)
の御城(ハ)御城(ハ)御城(ハ)御城(ハ)御城(ハ)

義之毛利甲(ハ)御城(ハ)御城(ハ)御城(ハ)御城(ハ)
公(ハ)御城(ハ)御城(ハ)御城(ハ)御城(ハ)御城(ハ)
と御城(ハ)御城(ハ)御城(ハ)御城(ハ)御城(ハ)
より長光の御城(ハ)御城(ハ)御城(ハ)御城(ハ)御城(ハ)
公の御城(ハ)御城(ハ)御城(ハ)御城(ハ)御城(ハ)
秀忠公より白限五十枚より二十枚に至り具段十重
より五重に至り人(ハ)御城(ハ)御城(ハ)御城(ハ)御城(ハ)

元和四年 戊午

一四月廿二日政宗公白戸(ハ)御城(ハ)御城(ハ)御城(ハ)御城(ハ)

一五月廿八日忠宗公之服の事伊達根津守宗深十六
歳之少病死の事嚴松音寺(少入信言橋三吉追服の
根津守後見の事)て後尾石見福元と仰月今早世の
所石見二十年の事高野原郡二迫又多山太谷に川電の
海を予いし事

元和五年 己未

二月廿下田村大膳大夫清政の室の卒去少年七十歳少
死嚴松王寺(少入号密藏院殿田村少前)の母公忠宗
公の少祖母の

一月年春秀忠公政宗公宅(浪中)の物物多き事忠宗公
包永の少腰物少物故今年秀忠公の上洛政宗公の先
親の先打の京方秀忠公供奉(事内粟田口法眼電
繪の少屏風少物故の

元和六年 庚申

一月年白戸少大(少)門石垣十二下余兵形之少少
善(少)時に政宗公少在(少)忠宗公之少之少善信不
多(少)懈急事達上少秀忠公忠宗公を召見大腰物大
便利伽羅輝光と稱す

元和七年 辛酉

一因年春政宗公の屋敷が火に焼失は時秀忠公より白銀四千六百五十枚下給りし

元和八年 壬戌

一少将畧云同年秋羽衣完上山取原五ヶ所義経領地を
多上之具以原五ヶ所若輩より家中の大身共を義経
己より人任に譲ると由りし 利貞延興殿と松根備前
と云云所傳の事より家中と云ふ所荷持し事任に由り
公方の裁断に依りし所本願を残らば上原五ヶ所並に

因を知行三千石給りし後草下屋敷に遷居し家中の大
身の者共ハ四圍西むの大谷尾(三人三人元少将)政宗公
丹公中東上公完上義守の御義光の御妹(若子)山に在
陣し其御初の時完上(少将)義光より源五ヶ所義経と完
上南波と云妙少将共之然に完上没落すは政宗公
近よりを仙臺川に移給り又完上御上より政宗公
に依りて完上(少将)を以て備前の陣を移えらせらる完
上願六千石と云

元和九年

癸亥

一七月十二日將軍秀忠公少孀家光公上洛八月廿二日少
年十一歳とて少孀家光公少孀家光公上洛八月廿二日少
九月十二日京都少出日廿二日少孀家光公上洛八月廿二日少
一政宗公少母公少父字を志君初及少少病氣を七
十七日少卒去北山輪王寺に少葬禮あり少位牌ハ魚田甲斐
守師ハ覺範寺現任法岳保春院殿花室久米大姉と禮
し少少廟ハ覺範寺の後山にあり故少若林少法岳
一寺を深山して又林山保春院と号し法岳住寺し覺
範寺をも剱門和尙附屬とて少時政宗公少在東之於

禁中様案の少遊互七母の少志とて少系内而し禁中と
一政宗公虚堂の雲海と少北依忠宗公ハ芭蕉の蕉
物とて今年十二月廿日秀忠公政宗公少虚室（入所
少彌物お多り少忠公少腰物大貞宗と少北依
一或記云今年政宗公上京の時少母公少卒去三月少
忌中少あけ勅使少ん法花狂とて少主時
○た少後のために少あはる法の花少あ世ある少少あ

寛永元年 甲子 元和十年
一少後畧云二月廿日將軍家光公政宗公虚室（御少内能

五番らう綴め敷多る忠宗公一文字の贈物少報之
は後秀忠公の政宗公へ加送一包の自筆の洛書と云
今春於仙臺政宗公舟の會あり各新月と云題
と政宗公

○是るとしてと日 秋の初乃生公の方に文科の月
此介法橋兼五日兼益東昌寺泥牛覺範寺宛雀組
元似春祥景以漢和の遊あり

無言花駐客 政宗公

一七月廿二、忠宗公越前守に侍し家老公より贈物少報
一今年より十年より寛政浅う多晴日寺園中へふりて

一或記云寛政元年十月五日政宗公命明人王翼祭刈田
嶺宗高代公登拜此嶺自昔有火去年四月十六大發燔
此石雨砂十二月十七後鳴動甚至是歲十月不熄故
祭之地朝大鳴動及己時乃止云

寛永二年 乙丑

一四月十八日忠宗公初て入部の中事三十二貞宗の服指秀
忠公より少報領家光公の腰大少報仙臺の
呪ハ五く三の少祝儀より少相伴後乃石見松元公志摩重
長は所自今年より又子孫白く少固誓に少助仕之

寛永三年 丙寅

三月十八日忠宗公并少舎牙伊達三河守少月道中兼新
月廿五日少舎石四月終忠宗公少月見日八三河守少月見
四月下中忠宗公伊達三河守宗泰少奉公少台出日伊達右
馬宗公少秀忠公少小性少台出宗公三河守少少秋少
上降少右少宗公八京都少供少所月三河守八少歳少
仙臺(少)

七月廿六日秀忠公江戶少倉屋中上格八月少京都少若
少先少政宗公忠宗公伊達右馬宗公少父子三人少歳少
今上皇帝百九代女院少秀忠公少息女少姫若少誕生少月

少宗公少少丸中上格少

八月十一日於京都政宗公從三位權中納言忠宗公從四位
下少伊達遠少守秀宗公從四位侍從伊達右門大夫宗公
五位下諸大夫に在

八月十二日右馬大夫宗公少少伏日十七日夜於京都少奉去
四年十五少丸散少圖(少)少少采田少少少
追腹者坂兵部佐友松甲有見少手少移法少少由井五
少少福地石追日下十歳少丹波

九月六日今上皇帝二條城(行幸日十少還中
一十月十二日秀忠公京都出仰日廿四日江戶少降

一十月廿九、忠宗公伊順子玉仙翁伊下子

一九月七日、伊達右門大夫宗高伊何子七殉死

明庵良照禪定尼 伊乳人於阿榮

月林空明禪定門 伊福地右進三十二座伊先祀

懷盛共心禪定門 伊油井五郎助十七宅伊先祀

心鏡正安禪定門 伊管地七宅伊先祀

章岩清金禪定門 伊伊庭伊先祀

玉顏容白禪定門 伊赤坂伊先祀

傳翁成英禪定門 伊日下伊先祀

悦道奎喜禪定門 伊奇丹波六十二原伊先祀

中當觀心禪定門 伊有見勳平二十

柏庭音松禪定門 伊言持清伊先祀

伊法名龍崎院涼山英清大居士伊實名伊達右門大夫宗高伊

母八采田郡村田城主采田但馬娘伊右村田伊先祀

一宗譜云十月十九、草刈長門於京都曲馬伊先祀

長門掾伊先祀

寬永四年 丁卯

一三月廿二、忠宗公伊河守伊仙翁伊先祀

白戸伊先祀

一四月朔より多河守大名並し奉ふに御旨日廿六日政宗公の
暇より江戸の五仙為(中下)

一六月四日伊達筑前守宗信云河守仙為よりの死去三迫然

野山英金守より少藤経少法名高徳院殿外宮内言大

居士の母南丸殿と云寛永十二年七月廿六日卒去

追服 節安良忠信士 佐藤藤右馬

一十二月廿六日吉川守村守上使より云河守徳五位下使

大吏と任

寛永五年 戊辰

一正月十日若林少将の善信初津田豊前守信原奥山大学常
良奉行より家中又子兄より老い少の御(五人分)御仕と
各別して屋敷を御さる

一三月二十日忠宗公仙為より云御旨日九日江戸の石

一三月十二日考忠公政宗公屋敷(御中)より御相付にハおね五

らむおね長重立花元将守忠政の御能事番と忠宗公の

嫡息千代御守より云万兩後日入る虎千代御守能の子方

よりお新巻を献上あり政宗公の御旨より云御旨日二日御座堂

の御座堂より云御旨の御入より云御旨の御旨より云御旨より上

御旨に御成り門を云うれおねの御旨より云御旨より云御旨公

廣中より少少侍有馬三輩氏豊氏毛利甲斐守秀元之
少融五輩より危子代授乃少及少自見融之馬より政宗公
もは示兼光の少腰物を編みは後少起さの少大各元
召籠元危と二百余人少流見の少脱後少言庭少融ホより
一或記云今年若林少移年中に少善法出来喜少少移徒

寛永六年 己巳

一三月廿六日秀忠公忠宗公少成少自見危子代授乃少及
人少自見

一三月廿八日家光公政宗公少成五月十日政宗公少及

月十八日仙卷少及

一少謗畧云同年少及少及口比各二少新少及門非形石也少善
法政宗公に少侍身依少大奉行伊達家流定少及日武藏宗
利治金少十少京廻少及侍身法侍政宗公少在園少忠宗公宗
恭毎少及善法場少及之秀忠公家光公少善法場少及忠宗
公宗恭少及自見

一十一月八日後水尾院皇女少及即位少善法與子少母秀忠公少女东福門院

寛永七年 庚午

一四月八日忠宗公仙卷少及少及善法日十日少及少及

二月年春政宗公江戸より五日九日仙居の若又四月廿七日江戸より五日
五月甲仙居の若

六月甲忠宗公の嫡男貞元千代丸公年三於江戸より死去す母ハ
大相國家康公の孫也田三左衛門輝政の娘也道後仙居
ハ下覺範寺より葬礼導師法岳和尚の墓ハ東昌寺
より正眼院殿麗山崇仁大禪定門近後松浦寺也
一月年九月政宗公比谷より数寄屋様御座り御座り御座り
身伊達安藤定宗迄第廿十中奉行也寛永二年二月十一日
身

寛永八年 辛未

一七月七日忠宗公仙居の五日十四日江戸の若右衛門様御座り
一七月下旬秀宗公の御依り政宗公十一月廿五日仙居の五日
十二月新江戸の若右衛門様御座り

寛永九年 壬申

一正月廿四朝秀宗公五十四歳に薨去二月四日葬礼ハ
法名台徳院殿と号す也
一三月三日忠宗公江戸より五日九日仙居の若

寛永十年 癸酉

二月家光公政宗公宅（為成）由（原）出者（月）日三月十四
忠宗公（白）戸（少）名

三月世（言）家光公（少）成日六月廿三日政宗公（白）戸（少）名七月終
若林（少）名

寛永十一年 甲戌

一四月十一日政宗公（白）林（少）立日廿六日（白）戸（少）名

一六月十七日家光公（少）上洛（白）戸（少）名七月（言）京都（少）名政

宗公（少）伊達三河守（少）供政宗公先陣七月十日（少）名内政

宗公（少）秀宗公七月十日（少）名内（少）名（少）先（少）名（少）伊達三

河守宗恭同（少）京（少）宗時（少）禁内（少）淨衣（少）供日七月廿

以律中納（少）家久政宗公（少）西人（少）五千石（少）加給（少）之

一七月廿六日政宗公（少）西男（少）忌川吉昌（少）陣（少）河内守宗信（少）二十

二天（少）名（少）成注日（少）三十五（少）伊年去乞（少）遠（少）江守秀宗（少）一服（少）吉昌（少）天皇

寺（少）名（少）入（少）法名（少）空岩長印 追服大智依（少）中（少）右（少）名

浦川忠（少）名（少）中（少）名（少）采女佐伯左門（少）名（少）右（少）馬（少）名

寛永十二年 乙亥

一軍秘録云正月十二日（少）井（少）大炊（少）名（少）及（少）中（少）名（少）將軍家光公

跟（少）中（少）上（少）名（少）説（少）名（少）中（少）名（少）佈（少）上（少）名（少）中（少）上（少）説（少）名（少）中（少）名（少）出

跟（少）子（少）中（少）名（少）十人忠宗公（少）中（少）名（少）五人宗恭公（少）中（少）名（少）五人合（少）名（少）人（少）

境下北し若又人傳吉と云若指南之舟上六段末九十中橋田与
 平次庄子作十中 蹤子八熊田小平次地田藏人馬使大吉只地
 長十中 崎田の孫柳生橋たんの言を強き中之世の上境終中二
 九蹤子兼役若若吳彼を重いつくし日せテ中世傳ケ礼の上
 一也於中ニ北朝中朕と結上中ノ獻立

中玉子

たん

中若後松本奥中境赤うじん
朝のガリ

一さふて

じんん
まらふ

一ウ汁

去たけ小さ

一たの

一ウ免

一ウ横お石

中二格を及中柳を
まけとく 一ウ汁 たふじんふをくりて
おこめ

一日の能組

一たつき小串

一ウ吸物小鉢

一ウ吸物

一ウを

一ウ茶漬

一ウ

一さりのお

ウリ作丹
ふそい
大こん漬

一ウその焼

ウ多
おふ

お前 日産平たか 午年
三吉屋

幸多たたらん
山相 初たたらん

言破

進退

大 三平
小 片後

太 笛

市
あ

桜井

賞盛

格

小 大
十

太 笛

三
政

毛利甲
山口

九市方

小大
三寸
長方

笛
市方

加長或短板

玉苜

進尺

小大
三寸
五方

笛
長次方

永井日高板

透盛

弓安

小大
三寸
長方

大
笛
市方
長吉

保々兵九尺板

東房拔士
長尺

小大
三寸
長方

笛
部七

保々兵九尺板

大會

進尺

小大
三寸
長方

大
笛
部七

保々兵九尺板

長尺

小大
三寸
長方

笛
又三寸

保々兵九尺板

精削

春尺

小大
三寸
長方

大
笛
部七
長吉

保々兵九尺板

羅生門

保々石尺

小大
三寸
長方

大
笛
三寸
長尺

二月の初めに笛 平常部七 春日又三寸 長命長次方

小教 大藏長吉 幸法部 大表九方

大表藏令 大堀長藏

おろり子次方

身上 終末九十九日 彦子依市 達彦市市 牛田権作
 松元左左左 木村百女 柳生権右 多川市市
 松元大藏 鶴田門通 松田藏合 若地市市
 横田市市 熊田小平次 芦沢傳七 馬沢大吉
 横尾全治 只也長市 吉地孫市 木村原太
 右大臣教毛之 裝束之 金府之 蹤りし子
 一月五日 政宗公の末子少姫京極山守守之國少姫之御
 係伊達安房成実茂元周防守之京極原守之與信元
 京極全治之
 一月五日 政宗公の戸山立日十公仙為之

一七月六日 伊達筑前守宗信少母南丸殿少母去栗原郡黄
 金寺(葬)少法名同通院殿湖向音清大姉と云云
 一七月九日 朝成松合安松田少左衛門尉依忠宗公少左衛門尉
 少松
 寛永十三年 丙子
 一二月下旬 政宗公不快三月十九日 政宗公少病中少少
 一四月五日 少少若月十日 宗光公(少目見
 一五月廿二日 政宗公少不快少少 宗光公少成月廿二日
 少少の少少
 一月廿四日 政宗公七十歳少少 去月廿五日 骸白戸

今立仙居人少なり

一六月廿四日 貞山様 少筆 決次

一所導師 保春院清岳和尚 一影請 東昌寺真長老

一起念 日洞寺 彦山 一鎮念 寶福寺 祝峯

一典榮 大安寺 松屋和尚 一典湯 夏首座 好縁寺 和島

一安骨 傑山寺 乾山 一念珠 覺範寺 陶首坐

一門牛 一凡軒 珍首座

一同日 所道行之次第

一所導師 所集 一少後抱 子挺 大町 豊後 一少 寺 廿五 吉田 品書

一少 幾世 所 梅津 治 所 左 所 一 一 番 所 先 打 石 母 田 檀 之 所

居 帶 刀 素 澤 三 竹 杖 一 二 番 一 付 仁 少 仲 乃 一 三 番 燈 籠 子

少 仲 乃 三 澤 在 本 所 方 立 一 四 番 在 澤 山 居 右 京 少 燭 籠 古 田 九 三 番

少 花 籠 志 賀 右 門 少 香 炉 大 條 左 馬 方 一 五 番 少 桑

馬 塚 内 藏 所 少 湯 遠 辰 武 部 少 湯 籠 一 六 番 少 桑 乃

少 奉 行 小 松 六 右 門 田 子 久 左 門 竹 杖 三 三 有 方 立 一 六 番

少 坂 乃 右 方 少 荷 馬 一 足 白 旗 之 勢 少 口 元 武 人 少 代 物 百 貫 文

少 人 足 武 部 人 少 乃 之 少 長 持 十 桿 白 油 草 袋 少 人 足 北 人 少 乃 之

少 旗 凡 二 双 白 巾 人 足 少 人 足 少 乃 之 持 少 川 馬 十 一 足 少 次 少

一 番 伊 達 遠 江 守 殿 二 番 伊 達 三 河 守 殿 三 番 伊 達 左 京 殿

四 番 伊 達 治 部 大 輔 殿 五 番 伊 達 兵 部 大 佐 殿 六 番 伊 達 文 治 守 殿

七番伊達守藝身殿八番伊達武藏守殿九番石川氏於夫殿
 十番伊達左衛門尉十一番伊達清四郎右馬持日守金紀
 伊長召依丸乃奉行淡田久丸乃石田仲三郎
 一七番伊達守馬守白鞍白子冠白腹布口鞍上白袴々々
 右ノ内五匹乃馬右ノ追廻石田龍平改系解之左口八平
 左ノ改系解之ニ足ハ左右ノ口共ニ口元系袍之々々物
 白袴解之々々解列系袍之々々奉行系袴女平田甲申
 左ノ各系袍之々々杖五方に立一八番馬圍ニ五乃杖以
 之々白油甲解之々々人呈す之々々杖ノ甲履元々之々々
 呈白袋解之々々人呈す之々々杖ノ甲履元々之々々

床机白袋解之々々仲官色にて之々々立之々々右月乃之簡之提
 右月乃之提抱茶袋右月乃之持提云奉右月乃之長刀一挺右月
 乃之刀袋右月乃之奉行系解之々々此九持提太母之痛
 一九番伊達腰物殿坂丹波之々々刀遠左京之脇指湯村吉十郎
 之松之儀於淡波 一十番伊達位牌之鳥帽子白袴之々石川
 氏部太柳殿天蓋一本之々仲官之々々 一十一番伊達大供之
 鯉魚之々々之々内馬場遊殿殿之々周防之々不斬之々之々之々小
 性之々之々之々之々之々之々之々之々之々之々之々之々之々之々
 一之々之々之々之々之々之々之々之々之々之々之々之々之々之々
 之々之々 一十二番伊達之々之々之々之々之々之々之々之々之々之々之々

中次より九人一天蓋一才ヤ伊呂名もよふ海邊牙一歩
元一歩名道元一歩教而して若一歩位人元一歩元名母用元
一歩園名母用元一歩細工人元元上刑部中補和田名木松下
元名母山元十太夫一才二番奥山大学女 浄茶ヤ念院八方
念ヤ供一念院六方念院

御法名指館瑞岩寺殿前黄門利公大居士

中遊せらるるあき人の月と先たて浮世の雲とをわけて

信澤道忠禪定門是よりあき月の端よりあき
道よりしき松の音 石田将監

善波富因禪定門是より道たたり武士の
下きたしあは海院の本途 茂庭采女

法得紹澄禪定門地よりあふおのりか
五善の中及びいりてあけり 佐藤内膳

清徳淨眞禪定門おれこも心あくのりのめ
武士のはらうき海院の本途 南次郎助

円廻于規禪定門はらうき月の入さをたすのり
の月の道をたせ 青木忠五郎

説庭良直禪定門是よりあき月の入さをたすのり
かけもももにあはしり 加藤十三郎

芳叔久懸禪定門出るもりのあしとあはしり
ししとあはしり海院の本途 菅野正左門

聖空室道固禪定門是よりあき月の入さをたすのり
まをたすあをいしり 矢目伊兵衛

切翁知全禪定門是よりあき月の入さをたすのり
是よりあき月の入さをたす 入生田三左門

悦漳道規禪定門あき月の入さをたすのり
是よりあき月の入さをたす 喜斎

涼窓受慈禪定門是よりあき月の入さをたすのり
ちとあき月の入さをたす 小野二左門

怡心道悦禪定門はらうき月の入さをたすのり
是よりあき月の入さをたす 小平太右左門

石雲真鏡禪定門はらうき月の入さをたすのり
是よりあき月の入さをたす 渡邊権之丞

天岑因德禪定門 たのこまはたのまうとまをふれ 大槻在右門

祥岳遙瑞禪定門 石門監下 青木傳左門

伊保沖元株禪定門 日下 加藤三右門

松嶺自長禪定門 衣冠下 庄子茂傳治

円宥好清禪定門 日下 横山覺三傳

暗岑淨景禪定門 伊保内膳下 板山利兵衛

一矢月伊兵衛石塔平泉中尊寺ニ有リ表ニ

聖室道固禪定門

取刻何泯萬々年孝孫丹悃徹黃泉石根墓地抽

岸泐千尺碑椽拍石去矢目伊兵衛尉者 伊達陸奥

守仙臺黃門政宗公幕下之英士也 政宗公天子命

乎寬永十三丙子之歲仲夏幹念四莫俄然易黃美

於茲為報石恩伊兵衛尉自以三刀橫指破滿肚同以

三劔豎裂大胸終乎截斷唯骨唱滅供奉覺路改其

名号聖室道固古往今來於日域絕比倫實如斯勇

夫無知兒童走卒誦其遺名也

同石塔裏 仙臺中納言松平陸奥守政宗貞山利公二世

のつ供やのめいひや(尉常重仙臺覺範寺と自害

寬永十三年 丙子五月廿四

辭世 昭々日月新あふ道あはしほををぬあそひあふ

一七月十七日 泉光公酒井 櫻皮守 忠徳公 政宗公 中流式
幸 如透 忠宗公 少 由 忠宗公 少年 四十八

二月廿七日 忠宗公 少 泉 智 如 多 少 終 一番 中

石川氏部宗敏 伊達家房成実 伊達成藏宗利

伊達左五郎宗実 鮎貝兵庫宗定 榎保雅乐定盛

柴田中智朝親 小栗川中智宗頼 佐佐木徳兵衛

後田右左衛門宗景 飯坂善内足長 大條兵庫宗頼

泉田志麻重時 村田玄菟宗國 黒木善市宗恒

石曾大膳宗頼 浪上刑部宗純 新田下総茂親

石川右内宗光 白石刑部宗貞 五理伯耆宗根

大立首善市 田手助市之實 岡合宮内行信

坊田彦七平頼繁 上郡山内通玄為 大町彦七平定頼

大塚太市作 大内儀前重隆 飯田玄菟重祝

西天條操市義久 小原勝右内重隆 小泉清作

西大立首右通市信 白石正市 中崎監物吉成

宮内又市定清 中崎伊勢宗信 茂元石見綱元

遠及市市定良 佐藤新次市信 富山右内清頼

佐平助市市重國 下郡山源太市重定 大窪善七市

下飯伏城中 沼部源市市重次 砂金龜之助隆道

石曾源吉常貞 大町刑部道頼 高木金市市直吉

大松伏又六定実 后田甲斐宗輔 后堀内藏重頼
遠後或於玄信 后藤下徳近元

少召守

石母田長房建頼 新田善吉中義也 周方保藏重信

茂原右三信定元 依元藤平中 秋保長九中

新田左殿 石川劫六宗頼 清水源十中

后田信平中 志保系純宗直 后田大炊

后田牛松 志実兵衛中 后藤子藏信成

后田劫甲信南 后藤源次中 后藤九中元成

遠井左三門 宮北新藏 小園身人

横尾右三信定実 少田五郎信常 栗橋伯耆

片平左波建頼 草刈長門

二番座

高田義隆 白川右京義実 伊達信俊中五隆 猪苗代淳山宗周

八幡主計 天童甲斐頼永 松本市正女廣

猪苗代小平次 計左刑部重信 本宮仲次中重頼

志原水守殿定康 大塚若吉中光隆 葛西冬中重常

北郷刑部隆定 上道若守中吉秀 志原法橋快活

河原道安 后元竹守 志原松守

后庭道益 古伏久巳 清水右宗玄林

瑞詮

錦广体流

小島安玄傳

良學院者信

茂徳周防言孫

定倉十中重孫

只地内通

和久志是守

山名右京恭長

大條左三舟定頼

津田正口頼康

奥山大學常良

古内主膳重廣

牧野大藏重仲 鑄田駿河因如

古内伊豆義重

言紀与越左方光兼 見田玄重元成

伊東肥前重綱

鎗木七左門

古田九左傳元直

松元左衛門宗成

坂坂丹波仲久

佐之介藏定綱

同松元傳名代
和田九左方

渡部虎之助元孫

山名十左重成

山口内純重如

氏家主水法勝

成田重元勝

田中勘平良長

佐之介重孫

笠原修理盛康

志山刑部元輔

玉虫治平左門

梶田三左門

山名少左

上意重治平

奥山長十郎常辰

貝田久平

伊豆七藏

山名勘十郎

今泉山城信信

松尾馬房長傳

馬場原七郎宗成

大原守左方次重

内島陽隨殿友成

木村山平

渡邊助左方一孫

長沼依左門

中條常乃佐經

柴山又三信友成

名村勘九郎重

青木伊左郎常義

大町豊後重吉

吉田忠三傳義清

石母田權三傳宗頼

白石左方傳定方

懐信信成 恒躬昭政 川崎初音恭純

乃 常刀可玄 大沼九喜元成 大和田甲左の重清

卜祝 正文 猪苗代道气

宮川玄依 樫元洞治 三枝桂治

綿戸官治 玄春 道巴

益治 玄周 横田友益

清成成造

一十二月忠宗公左近衛少将浩真守に委任

寛永十四年 丁丑

一三月廿六日忠宗公御座四月二十日仙老の号

一四月廿七日内主膳重廣中島監物貞成少奉行と仰り元

来少奉行石母田大膳宗信茂庭周防良元貞山守村

常基津田左近信弘此時六人少奉行と仰り主膳八忠宗公少

出少先一定少保残五人に江戸番代

一九月上旬より少願し上仙老の御座四月二十日仙老の号

一肥前周知百姓山名四郎左衛門と云者南密國の切立丹の法傳

事して此友の老母引入此友より一里能瀬舟草と云所の

要害を捕り三月家光公の御大者として御付と云る月十

五年二月七日山名四郎左衛門死す月二年草の降旗御付に於

法之失少... 石見守仁... 少及易... 仰身

一六月中旬... 上黄金十... 仰身

一四月十... 寛永十九... 戊寅

一十二月... 正宗... 仰身

返照考十人

月景 室白 禅定 门 石川 久 馬

光影 昌 呈 禅定 门 山 岩 数 馬

淨庵 壽 清 禅定 门 高 橋 齊

春庭 道 香 禅定 门 横 山 権 之 允

意傳 玄 心 禅定 门 草 刈 新 舟

来迎 智 本 禅定 门 左 子 太 之 信

寬永十八年 辛巳

一四月初。梁川八幡宮勸修

一五月二十。忠宗公白戸中五日九。仙翁山宮

一八月三日。將軍綱吉公山誕生

寬永十九年 壬午

一四月十八。忠宗公仙翁山五日。仙翁山宮

一三月十五。綱宗公山先妣山。壬午。去。稱。中。綱。云。娘。君。云。

八。塚。善。導。寺。山。石。塔。表。書。云。

尊靈者 前大守羽林次將綱宗公之実母而掃笄貲財

九大臣隆致公之姫君 逢春門院之令妹也 遺骸於城

東善導寺寺造立 靈屋在嚴報地也 爾室永五戊子

春正月念四日城外失火守為焉有此時靈堂拜殿隨

而燒七矣依假宮一字不懈 香華奠今茲丙午秋

當大守吉村君再命有司將立石擬塔以刻 尊號

貼願萬々為石塔既成莊嚴肅々吁

寬永十九年 歲

得生院殿深養妙高大姊 綱宗公御実母

二月十五日

そのはらうにあらんををたぬて
まゝのまゝのまゝのまゝのまゝ

但木城後

小川五郎左衛門

六月下旬より仙臺地及び石垣山崩れ石垣崩れより仙臺地より
一白子山崩れありて仙臺地より石垣山崩れより仙臺地より

正保四年 丁亥

四月十一日仙臺地大石崩れ近所に死者廿一人山伏如く出火人数二百名
横矢より忠宗公の侍所人より金五千両あり

慶安元年 戊子 二月改元

四月十一日忠宗公仙臺地より五月十日仙臺地より

慶安二年 己丑

五月二日忠宗公仙臺地より五月九日仙臺地より

慶安三年 庚寅

四月八日忠宗公仙臺地より五月十五日仙臺地より

八月三日東照宮より九月五日仙臺地より
重如奉行役人の柳生権吉より大山三右衛門

慶安四年

辛卯

二月下旬より家光公の御例四月廿四日公薨す

四月廿九日家光公の御智家細公十一歳に御存命の御移

一月廿七日忠宗公の御戸の御五十九日仙逝の御事

十二月比々忠宗公の御母公の御不例

一或紀云四年四月廿日申刻大藏院様四十公薨すの御事

五月廿日御移東叡山に御移日廿五日の御事

御散侍格の御事御移入御事

御移十五通の御事御移朱水令の御事御移朱石炭大臣の御事

御移上御事

御移世の御事

御移の御事

追腹

御移の御事 御移の御事 御移の御事

御移の御事 御移の御事 御移の御事

御移の御事 御移の御事 御移の御事

御移の御事 御移の御事 御移の御事

御移の御事 御移の御事 御移の御事

御移の御事 御移の御事 御移の御事

御移の御事 御移の御事 御移の御事

進地孫在中阿於五ヶ所傷り相持指す中阿徒然但只小坐
中守松倉市心大草之膳之田五ヶ所不納在凡山元平中
中阿於五ヶ所の進地孫中阿呼曰中阿柳原五ヶ所青川此中
新五ヶ所中根次五ヶ所新井右京小徒之田曰井右次五ヶ所土屋忠法
中阿於孫母中阿不終末孫中阿馬子孫訪部孫中阿
一奥山五ヶ所五ヶ所進後進年能くは孫に先年井上中阿
指葉宮内永恆丹後堂元一孫不為の難を語らる何
孫の中阿孫五ヶ所孫の田五ヶ所中阿

一公方孫中阿界五ヶ所孫孫行凡分法園十宗八宗の奉守
一この田文五ヶ所 上野 下野 常陸 吉羽 陸奥矣

一誠後 後法 此七ヶ所六日光とて祖經のり五月廿九日時
下ノ祖經のり又合五ヶ所の孫五ヶ所

兼應元年 壬辰

一十二月十八日松木右京屋を田村右京大夫景言にとち政宗良
ハ忠宗公ハ二男として終末監物系經に五ヶ所中阿五ヶ所忠宗
公ハ母公田村中阿孫五ヶ所田村中阿孫孫に依て中
阿五ヶ所孫孫五ヶ所忠宗公ハ孫中阿孫五ヶ所此

一二月廿七日午辛と跡今も在る所五ヶ所出史記院侍在る百
六十五新定傳寺の赤之新町屋を以て本町廿四廿二ヶ所中阿

四月廿五日、忠宗公仙逝す。五月二十日、江戸に在る。

十二月廿一日、忠宗公の嗣子、正徳公の御孫、伊達若狭守、綱宗公に
爲り、綱宗公の御孫に、正徳公の御孫、伊達若狭守、綱宗公に
爲り、綱宗公の御孫に、正徳公の御孫、伊達若狭守、綱宗公に

明暦元年 乙未

四月廿六日、政宗公末の御女、忠宗公の御孫、伊達若狭守、綱宗公に
爲り、綱宗公の御孫に、正徳公の御孫、伊達若狭守、綱宗公に

五月二十日、忠宗公の御孫、伊達若狭守、綱宗公に
爲り、綱宗公の御孫に、正徳公の御孫、伊達若狭守、綱宗公に

九月十七日、東照宮公の御孫、伊達若狭守、綱宗公に
爲り、綱宗公の御孫に、正徳公の御孫、伊達若狭守、綱宗公に

井九五傷

今年六月、内裏火に上

明暦二年 丙申

四月廿六日、忠宗公仙逝す。五月三十日、江戸に在る。

明暦三年 丁酉

正月十一日、油井正雲、九橋忠彌と云、信人天下に逆らふに、江戸
中、火を附、燒失す。江戸五百七十八所、燒失す。正雲、忠彌、花
味、其者、余人員、川、く、く、は、む、他、月、正雲、八、渡、河、府、中

四男伊達河内守宗信是河内城之秀宗公少内服

五男伊達振律守宗通忠宗公少内服三ノ也城主

六男伊達三河守五位^宗伊達大夫岩子山城主

七男竹松丸忠宗公少内服守也

八男伊達筑前守宗信三迫城主少守世少内服南成

九男伊達右衛門大夫五位伊達大夫村田城主十五和少守也

十女石川氏部大補宗光室大和宗弘少母公角田城主

十一男伊達治部大補宗実成美公少養子互内城主

十二女伊達右衛門大夫少室守也

十三男伊達兵部大夫宗勝五位伊達大夫

十四女京極丹後守少内服少室京極丹後守少内服

少母公

一松平陸奥守政宗公八伊達左京大夫輝宗公少子也伊達

宗実上駿河守義盛之少息女

一政宗公永録十丙午二月十六日誕生少幼名梵天丸少真

方田村大膳大夫清顯之少息女天正七年十月七日少孫山

原式部牧也守義盛之少息女天正十年十一月七日少孫田村

田村系向後内政宗公少遠尾山城伊達宗川少孫宗元少母之

一長長十三年戊申政宗公松平氏少孫陸奥守少守也

一文祿五年丙申新地少陣政宗公世孫成美公也九年

一 變長五庚子白石少降政宗公世四年成實公世三年成實
 公石月大和治舍小十中元持之歸系之
 一 變長八甲辰二月成實公石之理(元為移取
 一月十八甲寅十月廿五大坂少降政宗公四十八年成實公四十
 七年
 一 元和元年五月廿大坂為降
 一月八年壬戌九月上少降政宗公五十二年成實公五十九年
 一 寬永十三年五月廿中政宗公七十九年之通去
 一月十四丁丑六月廿甲大洪水互理北江亦之通行也
 一月年肥前國略石切支丹一換起也

一月十五戊寅右切支丹三万七千人余燒殺也
 一 正保三丙戌六月甲成實公七十九年之通去
 一月年八月廿七治部大史宗實公五之理(元為移取
 一 天正之頃常陸守羽張貞領主
 一 依竹修理大夫源義重領主
 一 最上守羽守源義光領主
 一 一守右方右侍平義廣領主
 一 岩城左方右侍平常隆領主
 一 相馬長門守平義胤領主
 一 三本松右京亮源義隆領主

又源能八種宗公少知年三丁

又源能八種宗公少知年三丁

暗宗公少知年三丁

義光少知年三丁

一戶名盛高十八暗宗公少知年三丁

又兵庫次親隆八暗宗公少知年三丁

一田村大膳大夫清頼

一大崎左衛門尉源義隆

改宗公の男清頼公
祖宗公の女

大崎義政の養子成宗公の男ナリ
清和源氏足利左京亮行徳守宗景

一須ヶ川備後守輝行

石堂刑部義房の退治貞光探題ト
ナリ荒谷三任ス

時宗公の男三子改宗公の伯母

一葛西左京大夫平晴信

一石川大和守源昭光

晴信又時胤八祖宗公の少子晴宗公
少子ナリ

時宗公の少子改宗公の伯父

一白川上野介義親

一伊達左京大夫輝宗公

信夫太夫ニ
少右陣

一楢田俊宗

中務
祖宗公の少子

一猪苗代 三万二千九百七石余

一塩松 三万五千二百石余

一安達 三万三千九百七石

一安積 三万六千八百七石

一田村 八万七千七百五十三石

一石川 三万百四十九石

一白川 三万九千九百廿二石

一會津 二万三千石

一家康公の誕生天文十一年寅ノ十二月廿六日

一秀忠公の誕生天正七年卯ノ四月七日

一家光公の誕生慶長九年辰ノ七月十七日

一家綱公の誕生寛永十八年己ノ八月三日

先追四代十二支續キ之夏不思後ニ次ル館林宰相少

誕生正保三年戌ノ正月八日也十二支の遠シク

之ハ養君ト之世孫トナシテ陽相ノヤカ名ト在焉

此と名を承けし自然の天理成りしと云く

明治五年三月十八日

明治五年三月十八日

明治五年三月十八日

明治五年三月十八日

明治五年三月十八日

明治五年三月十八日

八十二翁 佐藤脩亮書

東國大平記卷之三 終